

令和7年度 江戸川区立二之江第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	～すすんで行く二小の子～ ◎思いやりのある子 ◎やりぬく子 ◎元気な子 ◎考える子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	笑顔があふれ、活気に満ちた明るい学校 子供たちに夢と希望を抱かせ、自立する力を育てる学校 学ぶことの意義が実感できる教育環境を整え、創意工夫ある教育活動を展開する学校
前年度までの本校の現状	成果 ・特別支援教育に関する専門的知識をもった教員が中心となって研修を行い、個別最適な学習指導や学習環境の構築をしたこと。 ・児童1人1台端末を積極的に活用した授業を行えるよう、授業改善を行ったこと。	課題	・問題解決型の授業を行い、基礎基本の定着を確実にし学力の向上を図ること。 ・1人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを実現すること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進	・全学年、週に1回ずつ国語と算数の朝学習を実施。	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が国語の授業が分かると回答	80%	90%	B	・朝学習は、毎週火曜日に国語、水曜日に算数を設定し、どの学年も毎週取り組んでいる。 ・国語のアンケート結果は、91%だった。	A	・朝学習の時間を効果的に使って、学習して欲しいです。	A	・どの学年も、毎週の国語と算数の朝学習が定着した。専科教員も4年生と5年生に入り、苦手な児童の支援を行った。 ・国語のアンケート結果は、90%だった。	A	・正しい言語の理解は、学びの基礎です。	・専科教員が、特別に支援が必要な児童を中心に補助に入る。 ・新聞記事を使った問題を、学力に応じた活用を行っていく。
	○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・算数授業において、問題解決型の指導法である算数授業スタンダードを行い、授業改善をする。	・児童へのアンケートで、80%以上の児童が算数の授業が分かると回答	75%	85%	B	・問題解決型の指導法を全教員で学び取組んでいる。2～3年生が校内研究授業を行った。毎時間、めあてを確認し、授業最後には学んだことを振り返っている。 ・算数のアンケート結果は、89%だった。	B	・九九の定着は、とても大切です。	B	・問題解決型の指導法を、1年間校内研究で学び続けた。児童が課題を見つけ、自力解決したり全員で考えたりして達成感を得られるようになってきた。 ・算数のアンケート結果は、90%だった。	A	・算数は、論理的思考を育成します。根気よく取り組みを。	・校内研究において、続けて算数を研究する。問題解決型の指導法を全教員に定着させる。家庭と連携して、定着を促進していく。
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートを活用した探究的な学習を、公共図書館巡回職員との協力も得ながら実施する。	・探究的な学習 各学年年1回 ・成果物を全校に共有 年1回	60%	80%	C	・朝読書は、毎週木曜日に金曜日に設定した。どの学年も、毎週取り組むことができている。	B	・読書好きな子となるよう、育成をしてください。	B	・どの学年も、毎週の朝読書が定着した。探究的な学習も、各学年取り組むことができ成果物も掲示した。探究的な学習の質をさらに向上させていく。	A	・穏やかな思考は、読書力です。音読も是非行ってください。	・探究的な学習の質をさらに向上させていくために、複数の資料を活用したり、「問いを立てる力」の育成を行ったりしていく。
体力の向上	○園に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・全児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加し、児童へのアンケート結果で80%以上の児童が肯定的な回答	80%	85%	B	・なわ跳び週間は、全校で取組んだ。 ・運動会で4年生が、なわ跳びを使った表現を行い、より技能も上達した。 ・アンケート結果は、84%だった。	B	・運動会のなわ跳びパフォーマンスも素晴らしいかったです。	B	・年3回、なわ跳び週間を実施できた。 ・なわ跳びにチャレンジすることに、どの学年も技能が上達した。 ・アンケート結果は、85%だった。	B	・集中力には、体力が必要です。楽しんで育ててください。	・なわ跳びに取り組む時間を増やし、取り組み方やなわ跳びカードを工夫する。 ・教員のなわ跳び指導の指導力を向上させる。
		・体力テストに向けた取り組み、体力テストの結果の活用等を行い、各学年で授業改善をする。	・児童へのアンケートで、体力向上に向けて、80%以上の児童が肯定的な回答	60%	70%	C	・体力テストに向けて、どの学年も取り組むことができた。 ・アンケート結果は、69%だった。 ・行間休みに運動遊びを計画している。	B	・体力ある元気な二小を願っています。	C	・体力テストの結果を受けて行間休みの運動遊びを12月から強化した。児童が達成感を持つことができるように工夫が必要である。 ・アンケート結果は、74%だった。	B	・行間休みに、積極的に外に出て体を動かしましょう。	・児童の体力向上に向け、「体力アップカード」を活用し、休み時間に進んで運動遊びに取り組めるよう工夫する。
実践に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた園に応じた指導の実施・充実	・巡回指導教員と連携し、教員向け研修会を実施	・教員向け特別支援研修会 年3回	90%	95%	B	・研修会を、1回実施済み。 ・日々の授業で、児童に支援可能な方法を学んだので、2学期からの指導に生かす。	A	・定期的に来てくださるのがよいと思います。	A	・教員向け特別支援研修会を年3回行った。特に、3学期には新しい講師をオンライン招聘し、新たな視点からの研修会を実施した。全教員が、児童への指導に役立てていく。	A	・教えるは学びの半ば。 ・教員も、学ぶ喜びを。	・教員の困り感に合わせて、ニーズに合った研修会を企画していく。
		・臨床発達心理士によるアセスメントを実施	・アセスメント 年6回	90%	95%	A	・アセスメントを、2回実施済み。 ・頂いたフィードバックを、支援に生かしている。	A	・それぞれの児童の特性を理解することは大切です。	A	・臨床発達心理士によるアセスメントを、年6回実施した。フィードバックを、各クラスの指導に役立てた。	A	・先生方も、心理士さんからたくさん学んでください。	・校内で、担任と心理士、特別支援コーディネータが情報共有をしっかりと行い、タイムリーにアセスメントを行える環境を整える。
	○副読本交流、交流及び協働学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び協働学習の実施	・交流、協働学習 各学期1回	90%	98%	A	・2年生が、交流を1回実施した。 ・2学期の計画もできている。	A	・二小の子供たちと一緒に学習できる環境が良いです。	A	・副読本交流において、年間指導計画に基づいた交流及び協働学習を、年3回実施した。継続的な交流により、互いの個性を認め合う貴重な機会となった。	A	・来年度も、継続的に交流をしてほしいです。	・事前指導をしっかりと行い、交流や共同学習を継続する。
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・道徳授業、教員研修の充実	・いじめ防止授業 年3回 ・いじめ防止対策教員研修 年3回	90%	95%	B	・いじめ防止授業を、1回実施済み。 ・教員研修会を、1回実施済み。 ・児童集会で、いじめ防止について講話を実施済み。	A	・いじめは許されないので、しっかり指導をお願いします。	A	・いじめ防止授業年3回、教員研修年3回、児童集会年1回を実施した。いじめの未然防止・早期対応を教職員全員が意識し対応できた。	A	・小学校時代の思い出は、一生残るようです。どの子も幸せに。	・全校児童へ、年度初めにいじめ未然防止の指導として「いじめの定義とは」「困ったときの対応方法」を教える。
	○いじめ対策、不登校対策の実施・充実	・いじめ防止対策委員会、不登校防止対策委員会の実施	・いじめ防止対策委員会 月1回 ・不登校防止対策委員会 月1回	90%	95%	A	・いじめ、不登校共に、委員会を月1回実施済み。委員会では、SCやSSWと連携できている。	A	・不登校の児童も学習できるよう工夫があるといえます。	A	・いじめ防止対策委員会、不登校防止対策委員会を各月1回実施した。特に、エンカレッジサポーターを活用し、強力な対応ができた。	A	・エンカレッジサポーターの取組みが、とても良いと思います。	・エンカレッジサポーターの活用について、教職員だけでなく、保護者・地域の方にも広く説明する。
	○子供たちの健全育成	・SNSルール、1人1台端末活用ルールの徹底	・児童へのアンケートで、80%以上の児童がルールを守れていると回答	90%	95%	A	・アンケート結果は、95%だった。 ・授業中の端末の活用方法について、児童集会で講話を実施した。	A	・家庭での使い方も心配しています。	A	・アンケート結果は、95%だった。 ・昨年度と比較すると、格段にSNSルール、1人1台端末活用ルールを守ることができた。	A	・家庭でも、ルールを守るようお願いしたい。	・端末活用ルールを新たに決め、学校全体で同じ指導ができるように工夫する。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの更新	・学校ホームページへの掲載 月15回	90%	98%	A	・学校ホームページに、週4回程度、各学年の活動の様子を写真で掲載した。	A	・町会行事の計画にも、学校行事優先で計画します。ホームページは常に参考にしています。	A	・学校ホームページへの掲載を、月15回以上実施した。1日数時間の掲示を行い、学校の様子を積極的に公開することができた。	A	・学校ホームページがよく更新されていて、学校の様子が分かります。	・学校だよりにより、全校行事等のお知らせを増やしていく。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、学校評議員、教職員へのアンケート調査の実施	・児童アンケート 年3回 ・保護者アンケート 年1回 ・学校評議員アンケート 年2回 ・教職員アンケート 月1回以上	90%	98%	A	・児童アンケート 1回実施済み。 ・教職員アンケート 全6回実施済み。	A	・アンケートを効果的に活用してください。	A	・児童アンケート年3回、保護者アンケート年1回、学校評議員アンケート年2回、教職員アンケート全12回実施した。各結果を、来年度の指導に生かしていく。	A	・体力向上を始め、元気な二小の子に育ててほしいです。	・今年度頂いたアンケート結果を分析し、来年度に生かしていく。
教育の特色ある展開	○蓮の育成	・蓮植え（4月）、蓮堀り（10月）を実施 ・総合的な学習の時間で、蓮等について学習しまとめる。	・児童の参加 90%以上 ・学習成果物の掲示 年1回	90%	98%	B	・4月に蓮植えを、90%以上の参加で実施済み。 ・蓮堀りを終え、学習成果を掲示予定。	A	・卒業生にとって、移動教室と同様、思い出に残っています。	A	・4月に蓮植え、10月に蓮堀りを、90%以上の参加で実施した。 ・探究的に学習した成果を、掲示した。	A	・休耕時も整備されていて、次年度の成果に期待できます。	・蓮田の維持管理を、教職員で分担し、来年度の蓮植えが滞りなくできるようにする。
	○働き方改革の推進	・月2回の定時退勤日の設定	・月残業時間が5時間以下の教職員 80%以上	65%	75%	C	・特に、5～6月は残業時間が多くなった。 ・早く退勤できたときには、印を付け見える化をしている。毎週1回全教職員が印を付けられるように仕事の段取りを工夫している。	B	・以前より、職員室の灯が早く消えている様になっています。	C	・月残業時間が5時間以下の教職員は、84%だった。印付けで、全体への効果はかなり感じられた。一方で、業務内容や役割によっては、十分な効果が及びにくい場面もあった。	C	・健康に気を付けて、子供の指導を豊かにしてください。	・業務内容の偏りが無いよう役割分担をし、月残業時間を減らせるようにする。